

日本が2大会連続の決勝トーナメント進出

サッカーW杯でドイツとスペインに逆転勝ち



日本-スペイン。後半、同点ゴールを決める堂安選手(右から2人目)

4年に1度開催されるサッカーのワールドカップ(W杯)はカタルで11月20日(日本時間21日)に開幕。1次リーグE組の日本は、1日(同2日)のスペイン戦に逆転勝ちして2勝1敗の勝ち点6とし、アジア勢初の2大会連続決勝トーナメント進出を決めた。日本は初戦のドイツ戦に浅野拓磨選手の決勝ゴールで2-1と逆転勝ち。4度の優勝を誇る格上の相手に快勝して好スタートを切ったが、次のコスタリカ戦では攻めきれず0-1と敗れた。

1次リーグ最後の相手は2010年大会覇者のスペイン。前半11分に先取点を奪われ苦しい展開となったが、後半3分、途中出場の堂安律選手がドイツ戦に続



日本-スペイン。後半、勝ち越しゴールを決める田中選手(手前)



日本-コスタリカ。後半、コスタリカが決勝ゴール



コスタリカに敗れ、選手に声を掛ける森保監督(中央)

堂安選手は「まだ歴史を塗り替えたわけじゃないが、大きな壁を乗り越えた。(同点ゴールは)あそこは俺のコース。絶対に打ってやると決めていた」と冷静に振り返った。田中選手は「自分たちを信じていた。後半に逆転できたのは、力があつたからだと思う。全員で勝ち取った16強だが、まだ何も成し遂げていない。次の試合が新たな歴史の始まり」と口元を引き締めた。



ドイツ-日本。後半、勝ち越しゴールを決める浅野選手(手前右)。奥はドイツGKのノイアー選手



ドイツ-日本。後半、同点ゴールを決める堂安選手(左から3人目)

いる国に勝てたことは、大きな自信につながる。最後はベスト8以上をつかみ取りたい」と話した。

三浦、木原組がペアで優勝

NHK杯フィギュアスケート

フィギュアスケートのグランプリ(GP)シリーズ第5戦のNHK杯は11月19日、札幌市で各種目のフリーが行われ、ペアの三浦璃来、木原龍一選手組がシヨートプログラム(SP)に続いて1位となり、合計216.16点で優勝した。シリーズ成績の上位6組が出場できるGPファイナル(8日~11日、イタリア・トリノ)への進出を決めた。



フリーで演技する三浦(右)、木原選手組



ペアのフリーで演技する三浦(上)、木原選手組

NHK杯で、その時は5位だった。3年後の今回は2位に28点以上の大差をつけて勝ち、大きく成長した姿を見せた。男子はSP2位の宇野昌磨選手がフリーでトップの188.10点の得点を出し、合計279.76点で逆転優勝。女子は坂本花織選手が2位だった。

森選手が2度目の優勝

トランポリン世界選手権

トランポリンの世界選手権は11月16日から19日までブルガリアのソフィアで行われ、女子個人で東京五輪代表の森ひかる選手が56.230点の得点で優勝した。個人では2019年大会以来3年ぶり2度目の制覇。



世界選手権で獲得した3つのメダルを手に笑顔を見せる森ひかる選手=21日、羽田空港

森選手は宇山芽紅選手と組んだシンクロナイズドでも優勝。森、宇山、桐生莉沙の3選手で臨んだ団体では、19、21年大会に続く3連覇こそ逃したものの、日本は銅メダルを獲得した。森選手は21年の東京五輪で金メダル候補に挙げられていたが、ミスが出てまさかの予選落ちとなった。その後、一時は競技生活から離れたが、再び頂点を目指して努力した。「まさかもう一度、この景色(優勝)が見られるとは思っていませんでした。失敗があつたからこそ結果につながった」と話した。2年後のパリ五輪での活躍が期待される。